

< 関東信越 > 小山工業高等専門学校

*****断り*****

図や一部文章は当該高専 HP 及び当該高専が作成する資料より引用

小山高専 HP : <https://www.oyama-ct.ac.jp/about/publications/>

学校案内 2020 :

https://www.oyama-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/07/college_guide2020.pdf

学校要覧(各学科の授業科目が載っていますので参考にでも。):

<https://www.oyama-ct.ac.jp/wp-content/uploads/2020/05/gakkouyouran2020.pdf>

*アクセス(図 1 は小山高専学校案内 2020 より引用)

〒323-0806 栃木県小山市大字中久喜 771



学校所在地 略図

- JR小山駅(東口)から約5 km、JR小田林駅から約4 km
- バス利用の場合は、JR小山駅改札より東口へ、
小山市コミュニティバス(城東中久喜線又は高岳線)
「小山駅東口」乗車、「高専正門」下車又は「小山高専入口」下車後、徒歩5分。
(バス所要時間 約20分)

図 1 小山高専へのアクセスマップ

*特色(図 2、3、4 は小山高専学校案内 2020 より引用)

- ・ 1965 年 4 月に開校し、50 年以上の歴史をもっている
- ・ 創立時には機械工学科、電気工学科(現在は電子制御工学科と統合し電気電子創造工学科に改組)、工業化学科(現在は物質工学科に改組)の 3 学科編成
- ・ 1970 年 4 月に建築学科、1985 年 4 月に電子制御工学科、1999 年 4 月には専攻科(現在は改組され、複合工学 1 専攻 5 コース体制)を設置
- ・ 専攻科は機械工学コース、電気電子創造工学コース、物質工学コース、建築学コースで編成されている

本 科		1年
機械工学科 (40名)	力、エネルギー、熱、流れなどに関する基礎と加工技術や製図などのモノづくりの基礎を勉強します。	
電気電子創造工学科 (80名)	電気電子回路・コンピュータ・電気機器に関する基礎を学び、その応用として新エネルギー技術、IoT、AIを学びます。 4年から3コース選択制	
物質工学科 (40名)	化学及び生物の基礎とそれらの応用を通して化学処理やマテリアル、バイオテクノロジーの技術を学びます。 4年から2コース選択制	
建築学科 (40名)	建築などを計画・設計するための知識と建物のしくみ、造り方などのモノづくりの基礎を勉強します。	

図2 小山高専の学科編成

<h3>機械工学コース</h3> <p>Course of Mechanical Engineering</p> <p>機械工学コースは、高専本科で獲得した知識と技術を発展させるカリキュラムにより、講義・演習・実験を通して、機械システム及びエネルギーシステムに関連する諸分野に柔軟に対応できる基礎学力の習得を目指しています。さらに特別研究及び実務研修（インターンシップ）により工学基礎・実験技術のみならず、問題解決能力や発表能力を養い、広範囲なものの方や考え方ができるような能力の向上を目指しています。</p>	<h3>電気電子創造工学コース</h3> <p>Course of Innovative Electrical and Electronic Engineering</p> <p>電気電子創造工学コースは、準学士課程を基礎として、専門性を深めつつ、広い技術に柔軟に対応でき、専門性を発揮できる人材の育成を目指します。基礎として、エネルギー・物性・制御・ロボット・情報・通信などの広範囲なカリキュラムになっています。これらの技術の修得や研究を通して、自己の能力を向上することを目指しています。それぞれの研究成果は、広く学会等において公表されて社会に貢献しています。</p>
<h3>物質工学コース</h3> <p>Course of Materials Chemistry and Bioengineering</p> <p>物質工学コースでは、材料工学や生物工学にわたる諸分野に柔軟に対応できる科学の基礎学力を養成し、高専本科を発展させた専門知識と技術習得を目指します。また、特別研究によって、大学工学部卒業以上の実験、問題解決能力、発表能力を養い、さらに実務研修（インターンシップ）により学生の実践性を高め視野を広める教育をしています。</p>	<h3>建築学コース</h3> <p>Course of Architecture</p> <p>建築学の諸分野である計画・意匠、構造・材料、環境・設備、設計、まちづくり等に柔軟に対応できる基礎学力を講義・設計を通じて修得し、それらを発展させた専門知識及び技術の修得を目指しています。また、特別研究に加え実務研修（インターンシップ）を通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価及び成果の分析までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指しています。</p>

図3 小山高専の専攻科編成

- 1学年では全学科の学生の混合クラス編成を行っている。全学科共通科目授業は混合クラスで行い、専門科目の授業は各学科に分かれて行っている。2学年からは所属学科によるクラス編成になる。
- 教養科目と専門科目をいつでも履修出来るようなカリキュラム(クサビ形カリキュラム)を取り入れ、5年または7年の一貫教育をおこなっている

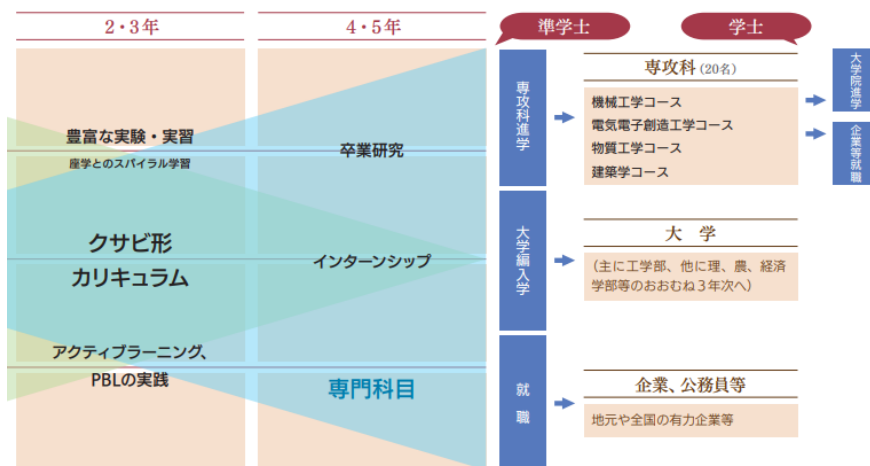


図4 クサビ形カリキュラムによる一貫教育

- ・技術者である前に人間であれという教育理念を基に、人間としての豊かさや魅力を備え、今を見つめて未来を創造できる技術者の育成を目指している
- ・教育理念を達成するための具体的行動目標として「探求と創造に挑戦しよう」、「思いやりのある心を持とう」、「心身を鍛えよう」がある

*アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)(一部文章は小山高専 HP より抜粋)

<当該高専本科>

- ・科学技術に興味があり、基礎的な学力をもつ人（科学技術への興味と基礎的学力）
- ・モノづくりや実験が好きで、自らのアイデアで、積極的に取り組める人（モノづくりや実験への積極性）
- ・部活動、特別活動、ボランティア活動等で活躍し、協調性があり、仲間づくりのできる人（課外活動と協調性）

(機械工学科)

- ・数学、理科、技術が好きで、得意な人
- ・自ら考え、手を使って、行動できる人
- ・環境や資源を配慮した機械作りに取り組みたい人

(電気電子創造工学科)

- ・数学、理科、技術が好きで、好奇心旺盛な人
- ・自分で考え、アイデアにあふれ、モノを作ることが好きな人
- ・最先端技術分野や先進的システムに興味があり、将来ものづくりで社会に貢献しようと思う人

(物質工学科)

- ・化学や生物に興味を持つ人
- ・自然現象に興味を持ち、好奇心旺盛で、実験が好きな人
- ・人間生活と自然環境との関わりについて関心のある人

(建築学科)

- ・数学や理科に興味があり、技術や美術が好きな人
- ・人々の生活環境を学び、快適な建物を設計してみたい人
- ・建物のしくみに関心を持ち、安全な建物づくりに取り組みたい人

<当該高専専攻科>

- ・工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人
- ・モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人
- ・学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力及び英語の基礎学力を有している人

(機械工学コース)

機械工学に関連する分野の基礎学力をもち、基礎を応用して、より高度な技術を自ら身に付けようとする意欲のある人、専門分野の知識や得られた成果を簡潔に説明・発表できる人。

(電気電子創造工学コース)

数学・英語の基礎学力と電気電子の専門基礎学力を有し、電気・電子・情報について自ら学び、その分野を積極的に研究できる人。

(物質工学コース)

材料工学や生物工学等の諸分野に関する化学の基礎学力を持ち、より高度な専門知識と問題解決能力の修得と自学自習の意欲があり、協調性を持ってチャレンジできる人。

(建築学コース)

建築学における、生活に密接に関わる安全・快適な建築物及び居住環境や都市空間について関心があり、これらの分野の基礎的な学力を有し、自ら学ぶ意欲のある人。

*入試形態

(当該高専本科)

推薦選抜、学力選抜、帰国子女選抜の三種類

(当該高専専攻科)

推薦選抜、学力選抜、社会人選抜の三種類

*試験状況及び偏差値や倍率(表2は小山高専HPより抜粋)

(当該高専本科 偏差値 62) 令和2年度

表1 令和2年度 出願状況

学科名	定員(人)	推薦選抜 志願者数(人)	推薦選抜から 学力選抜志願者数(人)	学力選抜 志願者数(人)	計
機械工学科	40	34	18	33	67
電気電子創造工学科	80	59	26	75	134
物質工学科	40	35	19	27	62
建築学科	40	41	24	32	73
計	200	169	87	167	336

(倍率)

機械工学科 1.7 倍

電気電子創造工学科 1.7 倍

物質工学科 1.6 倍

建築学科 1.8 倍

(当該高専専攻科 偏差値不明) 令和2年度

表2 令和2年度 当該高専専攻科募集人数

専攻名	コース名	定員(人)
複合工学専攻	機械工学コース	20
	電気電子創造工学コース	
	物質工学コース	
	建築学コース	

→出願状況等の掲載終了

*JABEE プログラム(当該高専では採用している) (一部文章,表 3 は小山高専 HP より抜粋)

<JABEE プログラムとは>

1999 年（平成 11 年）に、産業界と工業系学協会が中心となって設立した日本技術者教育認定機構（JABEE : Japan Accreditation Board of Engineering Education）のこと。大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているか、また国際的レベルであるかどうかを審査、評価して認定する制度である。JABEE は、国内の大学学部相当レベルの工学基礎教育の質とレベルについて、JABEE が主として設定した下記のような共通基準（機械や電気・電子、化学、建築学などのさまざまな受審分野に共通する基準）に基づいて技術者教育プログラムを審査し、認定を行う。教育プログラムが認定されると、プログラムの品質が保証されるだけでなく、プログラムの修了生は社会的にも また国際的にも技術者に必要とされる工学基礎教育を修得したものであるとして保証されることになる。また、技術士第 1 次試験を免除されて「修習技術者」となることができる。

<JABEE の学習・教育目標の共通基準>

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、および技術者が社会に対して負っている責任に関する理解（技術者倫理）
- (c) 数学、自然科学および情報技術に関する知識とそれらを応用できる能力
- (d) 該当する分野の専門技術に関する知識とそれらを問題解決に応用できる能力
- (e) 種々の科学、技術および情報を利用して社会の要求を解決するためにデザイン能力
- (f) 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力および国際的に通用するコミュニケーション基礎能力
- (g) 自主的、継続的に学習できる能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

当該高専では、以下のような技術者を育成するために、技術者教育プログラムを組んでいる

・学習・教育目標

専門工学分野の知識を生かすとともに、広く社会的、地球的視野を持った考え方や生き方ができる技術者の養成

・育成しようとする技術者像

産業界だけでなく、地域や国際社会で活躍できる、人間性豊かな創造的、実践的技術者

○技術者教育プログラム名： 複合工学系プログラム

「複合工学系」教育プログラムは、上で述べたような技術者を育成するため、JABEE の基準を踏まえて下記のように具体的な学習・教育目標を設定している。

○プログラムの学習・教育目標

(A) 科学や工学に関する基本的知識を習得し、専門工学分野の問題に応用して適切な解を求められる。

キーワード：科学や工学の専門知識

(B) 問題点を把握し、俯瞰的な考察に基づく科学的方法を駆使しながら協働で作業し、主体的に結論を導く姿勢を保てる。

キーワード：問題解決能力とチームワーク

(C) 数学および自然科学に関する基礎知識を習得し、それらを総合的に応用できる。

キーワード：数学と自然科学

(D) 科学・技術が自然や社会に与える影響を、豊かな人間性を備えた技術者としての視点に基づいて理解できる。

キーワード：技術者倫理

(E) グローバル社会で通用する研究調査や実験の計画を適切に立てて結果を論理的にまとめ、外国語も用いて正確に他者に理解してもらうことができる。

キーワード：コミュニケーション

JABEE が要求するプログラムの学習・教育の量は下記の通りである。

(1) 本科 4, 5 年および専攻科 1, 2 年の 4 年間の教育プログラムのカリキュラムにおいて、124 単位以上を取得していること。

(2) 教育プログラムのカリキュラムは、1600 時間以上の総授業時間数（教員の教授・指導のもとに行った実際の授業時間:1 時間は正味の 60 分）を有している こと。

ただし、総時間数の中には、人文科学・社会科学等（語学教育を含む）を 250 時間以上、数学・自然科学・情報技術を 250 時間以上、および 専門分野を 900 時間以上含んでいること。

上記の学習・教育の量に対する本「複合工学系」教育プログラムの教科目名や修得単位、および授業時間は、各学科および各コースでそれぞれ JABEE 基準の授業時間数を満足するように構成されている。

<履修対象者>

複合工学系プログラムは、本科 4, 5 年および専攻科 1, 2 年の 4 年間のカリキュラムで構成されているため、プログラム履修対象者は 4 年次に進級した時点で全員が対象者となる可能性を持っている。しかし、本科 5 年卒業後に就職する者、また、大学に編入学あるいは別の高等教育機関に進学する者もいるため、最終的な履修者の登録決定は専攻科入

学時点で行う。ただし、本科5年卒業後に就職希望する者も、将来社会人選抜試験で専攻科に入学する場合はプログラム履修者になる。また、大学へ編入学する場合も、編入学先の大学が設定する技術者教育プログラムの履修対象者になる可能性が極めて高いため、本科4、5年時でのプログラム履修が必要とされる。

<修了要件>

本教育プログラムを修了するためには下記の要件を満たす必要がある。

A. 2009年度(H21年度)以降の専攻科入学者対象

- ・ 学士の学位を取得すること。
- ・ 専攻科において 62 単位以上修得し、専攻科を修了すること。
- ・ 専攻科および本科 4、5 年を含めて計 124 単位以上修得すること。
- ・ 専攻科および本科 4、5 年において 1600 時間以上の総授業時間を経ていること。その中には、人文科学・社会科学等（語学教育を含む）を 250 時間以上、数学・自然科学・情報技術を 250 時間以上、および専門工学分野を 0 時間以上含んでいること。
- ・ 専攻科および本科 4、5 年において、プログラムが設定する次の基礎工学に関する科目群の中から少なくとも科目、合計 6 科目以上の単位を修得すること。
①設計・システム系科目群、②情報・論理系科目群、③材料・バイオ系科目群、④力学系科目群、⑤社会技術系科目群
- ・ プログラムが指定する必修科目の単位を修得していること。

上記 A 項で示されている(1)～(6)の要件のほか、下表に示される本プログラムの学習・教育目標の達成基準を全て満たすこと。

表 3 複合工学系プログラムの学習・教育目標の達成基準

学習・教育目標	目標の達成基準
(A)技術者に必要な基礎知識と応用力を身につける。	目標Aを掲げている開設科目の60%以上の科目を履修かつ合格し、その成績のGP(Grade Point、S評価=4、A評価=3、B評価=2、C評価=1 C評価以上が合格)の平均が2以上であること。
(B)技術者としての素養を身につける	卒業研究、特別研究、実務研修の採用表評価の各小項目がそれぞれ60点以上であり、かつ全体として合格していること。
(C)技術と自然や社会との関わりを理解する。	目標Cを掲げている開設科目の60%以上の科目を履修かつ合格し、その成績のGPの平均が2以上であること。
(D)コミュニケーション能力を身につける。	本科の卒業研究もしくは専攻科の特別研究の成果について1回以上、外部発表を行うこと。
(E)国際的な感覚を身につける。	TOEIC400 以上もしくは、同等以上のスコアを得ること。

*ディプロマポリシー(卒業・修了認定方針)(一部文章は小山高専 HP より抜粋)

<当該高専本科>

(機械工学科)

機械工学科は、理工系基礎学力と機械工学系の学力の修得に加え、人文社会系の素養も身に付け、自ら学び考え、課題を解決する創造性・探究心豊かな人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

(修得する能力)

- ・ 機械工学分野をコアとして、幅広い知識と技術を活用した課題解決能力
- ・ 課題の本質を理解、解析する論理的思考能力
- ・ 他者と協働し積極的に業務を遂行できる能力
- ・ 倫理観・責任感をもって業務に関わる姿勢

(電気電子創造工学科)

電気電子創造工学科は、理工系基礎学力と電気電子情報系の学力の修得に加え、人文社会系の素養も身に付け、自ら学び考え、課題を解決する創造性・探究心豊かな人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

(修得する能力)

- ・ 電気・電子・情報工学分野をコアとして、幅広い知識と技術を活用した課題解決能力
- ・ 課題の本質を理解、解析する論理的思考能力
- ・ 他者と協働し積極的に業務を遂行できる能力
- ・ 倫理観・責任感をもって業務に関わる姿勢

(物質工学科)

物質工学科は、化学を中心として材料化学や生物化学等の分野についての基礎学力の修得に次いで、化学物質を分子・原子レベルで精密に制御し、かつ組み立てる技術を系統的に学び、新素材・化学製品・バイオ物質に関わるあらゆる分野で将来活躍できるように、探究心を持って課題解決できる創造的な人材を育成するため、人文社会系の素養に加えて以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

(修得する能力)

- ・ 化学を基盤として、材料化学や生物化学等の幅広く系統的な知識と技術を活用した課題解決能力
- ・ 課題の本質を論理的に理解し、解析する能力
- ・ 他者と協働し、業務を積極的に遂行できる能力
- ・ 倫理観・責任感をもって行動する能力

(建築学科)

建築学科は、理工系基礎学力と建築設計を行うための技術力の修得に加え、人文社会系の素養も身に付け、自ら学び考え、課題を解決する創造性・探究心豊かな人材を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する。

(修得する能力)

- ・ 建築学分野に関わる科目をコアとして、幅広い知識と技術を活用した課題解決能力
- ・ 課題の本質を理解、解析する論理的思考能力
- ・ 他者と協働し積極的に業務を遂行できる能力
- ・ 倫理観・責任感をもって業務に関わる姿勢

(当該高専専攻科)

専攻科（複合工学専攻）では、機械系、電気・電子・情報系、化学を基礎とした分野及び建築学の諸分野の基礎学力の養成と各専門性を深めつつ、技術の複合化・高度化の進む産業社会に柔軟に対応できる人材の養成を目指している。

具体的には、

- 1) 工学理論のみでなく、実験・実習、実学に裏付けされた技術者の育成。
- 2) 専門分野を持ちながらも他分野も見渡せる複眼的なものの見方や考え方ができるフレキシビリティのある技術者の育成。

このような人材育成目標に到達するために、以下のような能力を身につけた学生に修了を認定する。

1. 一般科目

言語や倫理観の育成に関する科目について一般科目から **6** 単位を修得すること。

2. 専門科目

2.1 数学・物理系の知識を育成するために、専門基礎科目から **4** 単位以上を修得すること。

2.2 複眼的な素養の育成をするために、コース共通科目から **26** 単位以上を修得すること。

2.3 専門分野の知識・能力の育成として、各コース科目から **17** 単位以上を修得すること。

総合的に、専攻科に **2** 年以上在学し、所定の授業科目のうち **62** 単位以上を修得した学生に修了を認定する。

*カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）（一部文章は小山高専 HP より抜粋）

<当該高専本科>

(機械工学科)

- 1) 機械工学の基礎科目：機械の設計や開発に欠かせない材料力学・材料加工分野、機械力学・制御工学分野、環境エネルギー工学分野及び電気・電子・情報分野などを基盤とした基礎専門科目
- 2) 技術習得に関する科目：ものづくりに必要な技術や手法を習得できる工作実習、機械設計製図（コンピュータ支援設計及び製図含む）、物理的な現象を理解し、測定方法を習得するための実験（機械工学、メカトロニクス）などの実技科目
- 3) 課題解決能力育成科目：機械工学概論、卒業研究などの課題解決能力、理論、応用力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目

(電気電子創造工学科)

- 1) 電気・電子・情報工学の基礎科目：電気回路、電磁気学、電子工学、電子回路、コンピュータ、プログラミングを基盤とした基礎専門科目
- 2) 技術習得に関する科目：実践的な工学実験、電気電子演習、情報演習、電子回路設計などの科目
- 3) 課題解決能力育成科目：電気電子創造実験、卒業研究などの課題解決能力、理論、応用力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目

(物質工学科)

- 1) 化学の基礎科目：有機化学、無機化学、物理化学、生物化学、化学工学を基盤とした基礎専門科目
- 2) 技術習得に関する科目：分析化学実験、物質工学実験などの実技科目
- 3) 課題解決能力育成科目：材料化学実験、生物工学実験及び卒業研究などの課題解決能力、理論、応用力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目

(建築学科)

- 1) 建築学の基礎科目：いわゆる建築計画（建築計画、環境工学、建築史など）及びいわゆる建築構造（構造力学、建築材料、木構造など）を基盤とした基礎専門科目
- 2) 技術習得に関する科目：実践的な創造演習（構造・材料実験、測量、環境工学実験）などの実技科目及び建築法規、構造設計などの実務的な色彩の強い科目
- 3) 課題解決能力育成科目：建築設計、卒業研究などの課題解決能力、理論、応用力、プロジェクトマネジメント力、チームワーク力といった総合的能力を開発するための科目

(当該高専専攻科)

- 1) 高専の準学士課程教育で修得した学力を基礎とし、さらに高度化・複合化した教育を行うために、コースごとの専門性をより高度化させた科目とともに、英語関連科目、経営工学、技術者倫理、環境技術、産業財産権などの共通科目を編成し、複眼的な配慮ができる技術者としての基礎を形成します。
- 2) デザイン教育科目としてプロジェクトデザインやシステムデザインを配置し、さらに実務研修（インターンシップ）を実施することで、広い視野とコミュニケーション能力を醸成します。
- 3) コースごとに専門科目を編成し、高度な技術に関する理解を深めます。
- 4) 実験・実習と特別研究を系統的に編成し、開発能力に富む創造的技術者を育成します。

* 卒業後の進路状況(令和元年度)(表 4. 5 は小山高専 HP より抜粋)
(進学状況)

表 4 令和元年度卒業生進学状況

本 科			
機械工学科	電気電子創造 工学科	物質工学科	建築学科
小山高専専攻科(6)	小山高専専攻科(12)	小山高専専攻科(4)	小山高専専攻科(6)
群馬大学	茨城大学	宇都宮大学	愛知工業大学
千葉工業大学	宇都宮大学(5)	岐阜大学	宇都宮大学(2)
東京農工大学(2)	群馬大学	群馬大学(3)	鹿児島大学
東北大学	千葉工業大学(3)	筑波大学	工学院大学
	千葉大学	東京工業大学	首都大学東京(2)
	筑波学院大学	東京農工大学	筑波大学
	筑波大学	豊橋技術科学大学(2)	豊橋技術科学大学
	東京工業大学	長岡技術科学大学(7)	日本大学
	東京農工大学(2)		前橋工科大学
	豊橋技術科学大学(2)		三重大学
	長岡技術科学大学(4)		室蘭工業大学
			横浜国立大学

専攻科			
機械工学コース	電気電子創造工学コース	物質工学コース	建築学コース
九州工業大学大学院	筑波大学大学院(2)	筑波大学大学院	筑波大学大学院
東北大学大学院	電気通信大学大学院	横浜国立大学大学院	
	奈良先端科学技術大学院大学		

(就職状況)

表5 令和元年度卒業生就職状況

本科			
機械工学科	電気電子創造工学科	物質工学科	建築学科
ANA ラインメンテナンステクニクス株式会社	アイピーロジック株式会社	旭化成株式会社	アイング株式会社
株式会社小松製作所	NTT 東日本グループ会社〈エンジニア〉	石福金属興業株式会社	株式会社 MBM
JX 金属株式会社	NTT データ先端技術株式会社	出光興産株式会社	川田工業株式会社
株式会社 JAL エンジニアリング	株式会社 NTT 東日本 関信越	花王コスメプロダクツ小田原株式会社	グランディハウス株式会社
新明和工業株式会社	株式会社オウルテック	東京消防庁	コクヨ株式会社
セイコーエプソン株式会社	株式会社オートテックジャパン	東レ株式会社	株式会社システム設計事務所
DMG 森精機株式会社	オープンテクノロジー株式会社	日清紡ホールディングス株式会社	大日本土木株式会社
電源開発株式会社	花王株式会社	ニッポー株式会社	電源開発株式会社
東京ガス株式会社	ギガフォトン株式会社	株式会社日本色材工業研究所	東レ建設株式会社
株式会社ナカニシ	グラクソ・スミスクライン株式会社	日本ゼオン株式会社	栃木セキスイハイム株式会社
株式会社日産オートモーティブテクノロジー	ケーブルテレビ株式会社	日本電解株式会社	西松建設株式会社
日本貨物鉄道株式会社	株式会社小松製作所	日本薬品工業株式会社	日本メックス株式会社

日立造船株式会社	埼玉県庁	富士石油株式会社	株式会社ビームス・デザイン・コン サルタント
株式会社日立ハイテクフィール ディング	三桜工業株式会社	株式会社三井化学分析セン ター	株式会社フケタ設計
ファナック株式会社	株式会社システムエクゼ	森永乳業株式会社 利根工 場	フジタビルメンテナンス株 式会社
本田技研工業株式会社	株式会社資生堂	株式会社 LIXIL	
株式会社牧野技術サービ ス	株式会社 SCREEN PE エンジ ニアリング		
マレリ株式会社	セイコーNPC 株式会社 那須塩原事 業所		
	セキスイハイム工業株式会社 東京事 業所		
	株式会社セゾン情報システ ムズ		
	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ 株式会社		
	ダイキン工業株式会社		
	ダイゾー株式会社		
	東海旅客鉄道株式会社		
	東京ガス株式会社		
	東武インターテック株式 会社		
	東レ株式会社		
	株式会社栃木ニコンプレシ ジョン		
	ネクサート株式会社		
	パナソニック株式会社 オートモー ティブ社		
	株式会社日立ハイテクファインシ テムズ		

	富士ファイバーグラス株式会社		
	本田技研工業株式会社		
	マブチモーター株式会社		
	有限会社幹空間工房		
	有限会社 夢玄社		

専 攻 科

機械工学コース	電気電子創造工学コース	物質工学コース	建築学コース
工機ホールディングス株式会社	出光興産株式会社	旭化成カラーテック株式会社	積水ハウス株式会社
日本原子力研究開発機構	小山鋼材株式会社	株式会社資生堂 那須工場	株式会社乃村工藝社
	株式会社小松製作所	龍田化学株式会社	プラチナゲームズ株式会社
	ソニーLSI デザイン株式会社		
	日信ソフトエンジニアリング株式会社		
	日本アルゴリズム株式会社		